

# 深浦町防災訓練

一秒でも早く高台へ逃げる心と物の備えを

5月26日、全町あげての防災訓練が行われました。午前9時00分に緊急一斉放送及び緊急エリアメール伝達と同時に訓練がスタート。訓練には、事業所、保育園や福祉施設、自治会などが参加し、日本海中部地震を教訓に、防災への意識を高めました。

この日は、青森県西方沖を震源とするM7・8の大地震が発生し、町内全域が震度6弱の揺れを観測。日本海沿岸に大津波警報が発令され、高さ5mの津波が襲来し、役場1階が浸水。また土砂災害により国道101号及びJR五能線の一部が寸断された事態を想定しました。地震発生時の放送を受け、参加者は慌てず落ち着いた様子で各避難場所へと避難し、経路を確認しました。

また、保健センター（広戸）に災害対策本部を設置し、町内13地区に配置された担当職員が、県総合防災情報システムを活用し、スマートフォンで各地区の負傷者や避難者の人数、被害のあった家屋の数など現地の様子を撮影し送信。災害対策本部で受信し、リアルタイムでの被害状況を把握しています。

修道小学校では今回の防災訓練にあ

わせて、自衛隊による防災学習会が開催されました。子どもたちは2つのグループに分かれて、自衛隊による毛布や衣類を使った簡易担架の作り方やタオルを使った止血方法などの応急処置の仕方を学びました。

役場文化ホールでは、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事の小山内世喜子さんによる「被災者の寄り添い支援が命を救う」足湯の効果と実践」と題した講話が行われました。講話後には、支援者役と被災者役に分かれて被災地を想定した足湯を実践し、参加した町民は被災地における寄り添い支援として足湯の効果を感じました。

## 【町の防災対策】

町では、令和5年2月に防災ハザードマップを新たに作成・配布しました。ハザードマップでは、津波による浸水区域や大雨による土砂災害警戒区域、各地域の避難所などが掲載されています。災害に備えて住居周辺の避難所などの確認を心がけましょう。町では今後とも、有事の際の備えとなるよう計画的な防災基盤の強化を図ることにしています。



高台に避難する役場職員



災害対策本部設置運営訓練



自衛隊による炊き出しの様子



足湯ボランティアを体験する日赤奉仕団員



全校で避難する修道小学校の児童たち



北金ヶ沢総合防災センターへ避難した児童たちと町民



止血の方法を学ぶ児童たち



簡易担架を持ち上げる児童たち

## 深浦町防災訓練講評

深浦町防災訓練が5月26日、町内全域で実施されました。まずもって怪我や事故の報告も無く、規律正しく訓練が終了できましたことは、関係各位の御協力の下に、町民の避難行動が適切に行われた結果だと思っております。

昨年、1月1日に発生した能登半島地震ではマグニチュード7・6の激しい揺れが北陸地方に甚大な被害をもたらしました。この地震によって引き起こされた土砂災害、火災及び液化化現象で物流が断たれ、上下水道が機能不全に陥るなど住民生活に多大な影響を及ぼしました。自然が持つ莫大な力に改めて驚愕しているところでもあります。

今年度は、日本海中部地震から42年目になりました。「甚大な被害、津波の恐怖を決して風化させてはならない。」との思いを、改めて町民と共有できたと思っています。

今年度の防災訓練も、地域住民と修道小学校児童による避難所設置訓練を併せて実施しました。災害発生時における共同の意識、地域が連携した防災対応の重要性を深く認識いただいたものと感じております。

また、陸上自衛隊の御協力により修道小学校において防災学習会を行ったほか、女性消防団員と合同の炊き出し訓練も実施しました。さらに、日赤奉仕団を対象とした研修会を行いました。災害発生時における避難所運営においていかに傾聴の観点が必要かを、体験を通して学ばせていただきました。御協力くださいました一般社団法人男女共同参画地域みらいねっとの皆様

様に心から感謝いたします。次に、災害対策本部訓練ですが、今年度は深浦町業務継続計画に規定する指定参集場所の一つである深浦町保健センターに本部を設置しました。自衛隊を始め、青森地方気象台、東日本旅客鉄道株式会社、東日本電信電話株式会社、東北電力ネットワーク株式会社、深浦町社会福祉協議会様にも参加いただき、より本番に近い状況で訓練できたと感じています。

災害はいつ発生するかわかりません。訓練で出来ないことは本番で出来ないことを肝に銘じ、訓練のための訓練ではなく、実効性ある訓練を今後も実施していく必要があります。職員及び関係者の皆様には本訓練の学びを活かし、町民の安全・安心に繋がる努力を継続していただきますとともに、町民の皆様には「防災のまちづくり」に御理解と御協力を賜りますことを切にお願いするものであります。

「災害は忘れた頃にやってくる。」私達は42年前の日本海中部地震の記憶を風化させない努力をこれからも続けて参ります。

結びに、今回訓練に参加協力してくださりました鯉ヶ沢警察署、鯉ヶ沢地区消防事務組合、陸上自衛隊第39普通科連隊、青森地方気象台、東日本旅客鉄道株式会社、東日本電信電話株式会社、東北電力ネットワーク株式会社、深浦町社会福祉協議会、深浦町消防団の方々に、改めて御礼申し上げますとともに、参加していただきました町民の皆様には感謝申し上げます。令和7年5月26日

災害対策本部長 町長 平沢一臣